



青木芳弘校長先生にICTの活用についてお話をうかがいました！

本校では、群馬県教育委員会義務教育課及び中部教育事務所の皆様のご指導のもと、ICT活用促進プロジェクトに昨年度から参加させていただき、授業におけるICT機器の活用について研究しています。

本プロジェクト前に、榛東村による200台のタブレット端末導入があり、本校の授業研究に大きな変化が生まれました。そして現在、本校は、「子どもの学びに学ぶ授業研究の創造」というテーマにたどりつきました。主な内容は以下のとおりです。活用・探究型の授業を研究する。本校で定める授業研究の5つの視点を意識する。1単位時間の学びの好循環をつくる。思考の可視化にタブレット端末を活用する。教科を超えた授業研究を行う。対話的な学びを重視する。単元計画や学習評価計画を大切に作る。そして、授業研究のサイクル（授業デザイン→授業実践→授業研究会）を循環させ、「子どもの学びを捉え、どのような授業デザインがよさそうか、授業者の考えを深める」ということに取り組んでいます。

授業研究を通して、授業における一人1台タブレット端末の効果も感じています。

- ①一律・画一の形式にとらわれない発想が生まれる。
- ②上書きができるよさを利用すると考えがよりよくなるとまとまる。
- ③言語と非言語を用いてまとめる工夫がみられる。
- ④必要に応じて友達の意見を参考にできる。
- ⑤個人の学びが成立し、対話的・協働的な学びにつながられる。
- ⑥学校行事、生徒会活動、委員会活動等にも波及効果を生み出す。



6月8日に第1回ICT活用促進プロジェクト公開授業（校内）を行わせてもらい、10月27日に第2回の公開授業を行う予定です。「子どもの学びに学ぶ授業研究」に興味のある先生方にお集まりいただき、授業について、ICT活用について語り合えればと考えています。

校長 青木芳弘

新井英雄研修主任に今年度の取組についてお話をうかがいました！



今年度は、「子どもの学びに学ぶ授業研究の創造」というテーマのもと、生徒の話合い活動における学びを発言や表情から分析し、そこから捉えた学びの姿を単元の学びとどのようにつながられるかという点がポイントとなります。

今まで曖昧だった話合い活動の中身を、ICT機器を利用しながら明らかにしていけることに楽しさを感じています。「子どもの学び」が本校の授業研究の中核なので、授業研究会で明らかになった成果や課題への納得感も高いです。

どのような授業研究の進め方が有効なのかを試行錯誤することは大変さもあります。なかなか先へ研究が進まないこともありました。しかしその度に、先生方で意見を出し合い、新たな気づきが生まれました。先生方が前向きに授業研究へ取り組める榛東中の雰囲気が何よりのやりがいです。

研修主任 新井英雄

【実践例】第1回ICT活用促進プロジェクト公開授業

第3学年社会 単元名「二度の世界大戦と日本」

榛東中学校では、ICTを活用して思考を可視化し、対話・協働を重視した授業づくりを研究しています。各教科でICTをツールとして活用した授業が展開されています。

①前時までには、第二次世界大戦へのターニングポイントについての**各自の考えをコラボノートのシートにまとめてあります**。
この時点では、他の生徒のシートは見ることはできません。

②先生が**大型モニターに生徒のコラボノートのシートを比較したものを提示し**、本時のめあてを明確にします。
めあて「日本が戦争に突入していったターニングポイントを考えよう」

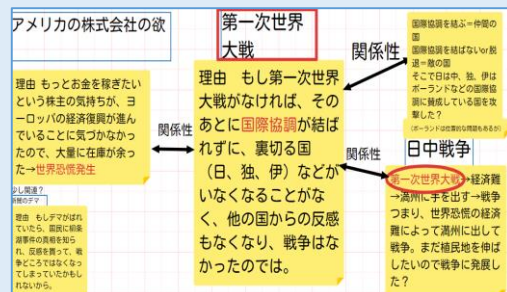
③シートをもとに小グループで各々の意見を伝え合い、議論し、考えを深める活動をしました。自分のシートがあるため、自分の意見の根拠を明確に相手に伝えられます。シートには、新しい考えの追加（上書き）も可能です。

④グループ活動の後からは、生徒は**他のグループの生徒のシートも見ることができます**。
いろいろな人の考えに触れることで、新たな気づきを得たり、自身の考えを深めたりすることができました。

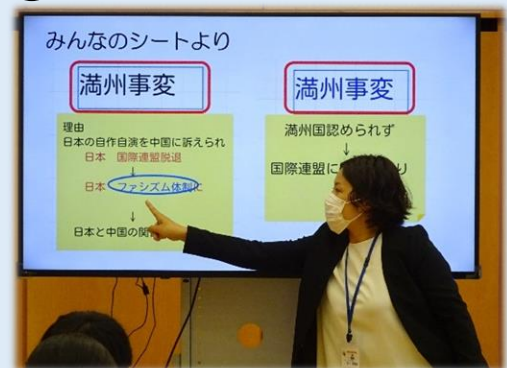
○先生のタブレットでも全員のシートの内容を確認することができ、**意図的な指名も可能**になります。生徒一人一人の学びがどの程度成立しているのか把握することもできます。

◎本時の授業で先生は“**ファシリテーター**”として、**問いかけ、ゆさぶりを繰り返して、生徒の意見を引き出し、考えを深めさせていました**。生徒が主体的・協働的に学ぶ姿があり、子ども主役の授業が展開されていました。

①



②



③



④

